

韓統連大阪通信紙

自主

チャジュ

363号

2021年5月号

자주

発行 在日韓国民主統一連合
(韓統連) 大阪本部

〒544-0034

大阪市生野区桃谷3-13-6

TEL06-6711-6377 FAX06-6711-6378

毎月1日発行 購読料 年間3000円

郵便振替 00940-7-314392

民族時報社 大阪支社

「済州4・3事件」73年目の「正名」問題、「4・3特別法」の意味を考える ここまで来たのか？ まだここまでなのか？

「正名」問題。読者にはなじみのない言葉かもしれませんが、今、韓国ではいわゆる「済州4・3事件」の性格を規定するうえで重要な要素となる当該事象に対する呼称問題が浮上しています。李承晩、朴正熙、全斗煥大統領時代とその後の韓国社会でも「南労党に扇動された暴徒による反乱」と呼ばれてきました（今でもこのように主張する人たちがいます）。

今年2月26日、韓国国会で「済州4・3事件真相糾明及び犠牲者名誉回復に関する特別法（4・3改正法）」が成立しました。改正法の第2条第1項には「済州4・3事件とは、1947年3月1日を起点として、1948年4月3日に発生した騒擾事態及び1954年9月21日まで済州道で発生した武力衝突と、その鎮圧過程で住民が犠牲になった事件をいう」とな

っており、改正前と変わっていません。「鎮圧」は「反乱」があったことを意味しています。3万人以上の犠牲者の多くは軍警ら討伐隊の焦土化作戦の犠牲となったものであり、国家権力の暴力による結果であることは明白でした。島民の行動は国家権力の暴力的焦土化作戦に対抗して生命、財産を守るための「抗戦」であったとする見解が済州島では一般的です。しかし、この見解は今回の改正法では盛り込まれませんでした。文在寅大統領は今年の追悼文で「完全な独立を夢見て分断に反対したとの理由で、当時の国家権力は済州島民に“アカ”“暴徒”“反乱”の汚名を着せ無慈悲に弾圧し死へ追いやりました。“被害者”を“加害者”に仕立て上げた軍部独裁政権は、弾圧と連

座制を動員して被害者らが声をあげられないようにしました」と述べ、一步踏み込んだ発言をして改正法の不備を指摘しています。

「相生と和解」は椿の花とともに済州4・3犠牲者慰霊の象徴となっています。さらにすべての犠牲者の名誉回復が「相生と和解」の要でありますが、一部の人らとその遺族は主要指導者だったことを理由に名誉回復の対象から今回も外されています。統一のためには戦争をした相手とも話し

合うのに、すべての犠牲者の名誉回復なしに南北統一を語るのは矛盾があります。4・3事件で難を逃れて日本に渡った人たちの名誉回復もどのように扱われるのか、これからの課題のようです。分断につながる単独選挙に反対した人にとって「大韓民国の法統」は受け入れがたいものがありますが、「慰霊の行脚」はぜひともしたいのが人情で

はないでしょうか。今、韓国の民主主義の完成度が試されています。

済州4・3平和祈念館の入口には「白碑」が横たわって置かれています。「白碑」とは何らかの理由で墓碑銘が書かれていないものを指します。

「人民蜂起」「民衆抗争」「暴徒による暴動」「事件・事態」など様々に呼ばれている「済州4・3犠牲者」の霊は正しい名が刻まれるのを待っています。すべての国民に受け入れられる。できれば南北海外の同胞が納得できる「正名」を待っています。そして「相生と和解」の象徴として建立される日を待っています。（鐵）



▲済州4・3平和記念館入口に起これている白碑

韓国サンケン労組の闘いに連帯し、

会社再開、解雇撤回をかちとろう！

韓国サンケン労組を支援する 大阪市民の会結成総会

日本に本社があり、昨年7月、韓国にある韓国サンケンの一方的会社清算と社員全員解雇を不服とし、会社再開、解雇撤回を要求して闘っている韓国サンケン労組に支援・連帯する目的で「韓国サンケン労組を支援する大阪市民の会結成総会」が4月3日(土)、大阪国労会館(大阪市北区)で開かれた。

総会では、大阪市民の会代表の濱本満夫さんが主催者挨拶(経過報告)を行った後、昨年から取り組んでいるサンケン大阪支社前での抗議行動を記録したスライド上映と韓国国内での闘いを記録したビデオ上映が行われた。

次に、基調講演を「埼玉市民の会」の松平直彦さんが行った。松平さんは講演を通じ「昨年7月の奇襲的な会社清算発表は、唯一組合潰しが目的だ」と述べ、本社の会社清算発表を批判した。

続いて、昨年7月以降、解雇された組合員の闘いを紹介しながら「解雇された組合員たちは、会社側から破格の慰労金(賃金60ヶ月分)を提示されたが、一人も応じず、職場復帰を目標に闘っている」と報告するとともに、「日本各地で支援・連帯する組織ができています。韓国の組合員たちと連帯しながら、会社再開、解雇撤回をかち取ろう」と語った。



▲連帯アピールを行う崔誠一事務局長

講演後、崔誠一(チェ・ソニル)韓統連大阪本部事務局長が連帯アピールを行い「韓国で闘っている組合員たちは家族も含め必死に闘っている。韓日民衆連帯の力で必ず勝利しましょう」と訴え、最

後に各団体からの連帯メッセージが紹介され、結成総会は終了した。

裁判所は弾圧に加担せず、

無罪判決を下せ！

大弾圧を許さない裁判所包囲ぐるぐるデモ

全日建連帯労組関西地区生コン支部に対する不当弾圧、組合員への不当判決が継続される中、労働組合つぶしの大弾圧を許さない実行委員会・大阪の主催で「労働組合つぶしの大弾圧を許さない裁判所包囲ぐるぐるデモ」が4月15日(木)、中之島水上ステージ(大阪市北区)で開かれた。

デモ出発集会では、武洋一関西地区生コン支部書記長が「大資本と対決する我々の運動に恐れをなした権力弾圧による逮捕・勾留が続き、さらには不当判決も相次いでいる。しかし、関生支部はこの弾圧に屈することなく闘いを継続している。今日のデモを通じて裁判所に正しい判決を下すよう訴えよう」と挨拶した。



▲デモに出発する参加者

次に「関西生コン労組つぶしを許さない東海の会」などから連帯アピールが行われ、最後に、実行委員会・大阪の小林勝彦さん(全港湾大阪支部委員長)が「正当な労働組合活動への不当判決は許せない。必ず全員の無罪をかち取ろう」と閉会挨拶を行い、参加者は大阪地方裁判所を包囲するデモに出発した。デモ隊はコロナ対策で間隔をあけながらデモを行い「裁判所は無罪判決を下せ！」「弾圧に加担するな！」などを訴えた。

4月革命61周年 在日韓国人青年声明

韓国で1960年4月に起こった4・19革命から今年61周年を迎え、在日韓国青年同盟（韓青）が、在日韓国人青年声明を發表しました。全文を紹介します。

今日、私たちは民族史に燦然と輝く4月革命から61周年を迎えた。

2021年現在、祖国の自主と平和、そして統一を巡る状況は決して歓迎できるものではない。

昨年の総選挙では積弊勢力である未来統合党（現、国民の力）を審判する「積弊清算」の民意が示されたが、この一年で文在寅政権の支持率は急落し、先日の再補欠選挙では結果として「政権審判」の民意が示された。その背景として、この1年間、積弊清算の進展が見られず、文在寅政権がキャンドル民意をくみ取れなかったことが主要な原因と言える。

また南北首脳合意を履行していない南側当局に対して北側は「3年前の暖かい春の日が戻ってくる事は難しい」と事実上見限りをつけ、南北関係は首脳会談以前の状況に戻ってしまったと言える。

文政権にとっては国内において積弊勢力に陣地を奪われ、南北関係は振出しに戻る1年となった。現情勢は祖国の「自主」が侵害されている、闘争局面だと言わざるを得ない。

韓国のすべての闘いの原点は4月革命にある。日帝植民地支配から解放された祖国は、支配力の維持を図った米国の手によって人為的に分断させられた。李承晩(イスマン)政権は、その米国の援助を受けて誕生し、朝鮮戦争に乗じて軍事統帥権を米国に明け渡したことをはじめ、米国の傀儡(かいらい)政権として民衆の生命を脅かす独裁支配を敷いた。

度を超える不正選挙で自らに権力を集中させたことや、対立する政治家にスパイ容疑をでっち上

げ処刑するなど、民主主義の根本を踏みにじる暴挙が横行していた。

「生きられない！変えよう！」殺人も厭わない独裁政治に、韓国全土が立ち上がった4月革命は、多くの血が流れる中で大統領を下野にまで追い込んだ。その後、米国の後押しを背景に5・16クーデターで権力を奪い取った朴正熙軍事独裁政権は、反共の旗のもとに4月革命の成果を軍靴で踏みにじり、再び独裁の時代が訪れた。しかし、4月革命の正義の戦いと勝利は、在日同胞に大きな希望を与え、私たち韓青が誕生し、4月革命精神を海外においても継承・発展させている。

今日の韓半島情勢を語る上での最重要テーマは、韓国政府の「自主」の不在であると言える。米国は韓国の背後操縦者として今日も君臨し、新たに誕生したバイデン政権は、韓半島への

侵略・支配姿勢を外交戦略で露骨に示している。ここに来て韓米合同軍事演習の実施や防衛費分担金の大幅引き上げ認証など、文在寅政権の親米従属的な路線が顕著になっている。このままでは文在寅政権は、南北関係を破局的局面へと落とし込んだ張本人と記憶されるほかない。今からでも「同盟」より「民族」を重視する自主の路線に立ち返り、板門店宣言を履行し、すべての対北敵対政策を中断しなければならない。答えは既に3年前の春に合意している。

私たちは在日韓国人青年は、4月革命精神を継承し、祖国の真なる「自主」のために決意を高め最後まで闘うことを固く決意する。

2021年4月19日 在日韓国青年同盟



▲李承晩政権を倒した4・19革命

【翻訳資料】

セウォル号惨事7周忌

「子どもたちとの約束を最後まで守ってください」

「大統領の意志と計画を直接お話してください。キャンドル政府がセウォル号問題をすべて解決する政府になってください。希望を継続するようにしてください。約束は、私たちの約束は、子どもたちとの約束は最後まで守ってください」。

セウォル号惨事7周忌を迎えた4月16日、京畿道安山市で犠牲者を追慕し、安全社会を念願する「4・16セウォル号惨事7周忌記憶式及び4・16生命安全公園宣布式」が開かれた。海洋水産部が主催し、4・16セウォル号惨事真相究明及び安全社会建設のための被害者家族協議会と4・16財団が共同主管した。この日、記憶式と宣布式はコロナ予防のために遺族と市民など99人だけ参加して進行された。



▲安山市内で開かれた記憶式と宣布式

いまだに完全な真相究明がなされないまま開かれた行事では、参席者は犠牲者を追慕すると同時に真相究明をしなければならぬと訴えた。

丁世均(チョン・セギョ) 国務総理は映像追悼辞を通じて「安全な大韓民国はセウォル号が私たちに残した大きな宿題で、私たちはセウォル号の痛みと苦痛の中で生命と安全の大切さを悟った」と話した。あわせて「セウォル号の真実はまだ海深いところに埋まっている。政府は必ず真実を糾明して責任者を処罰する。残された疑惑を最後まで明らかにする」と約束した。

キム・ジョンギ4・16家族協議会運営委員長は「私たちの息子、娘が空の星になって7年。しかし、沈没原因と救助しなかった理由を明らかにすることができず、救助責任者は何の容疑がないという検察特別捜査団の不良捜査と、海上警察指

揮部全員無罪という裁判結果のために、いまだに恥ずかしいアボジ(父)とオモニ(母)だ」と話した。

キム委員長は「文大統領に再び要請する。遅れたが、さらに遅くなる前に今直ちに真相究明の約束の履行を実行してほしい。聖域のない真相究明ができる工程と厳正な新しい捜査を始めてほしい」と要求した。



▲記憶式で涙を流す遺族

そして最後に「愛する息子たちよ。娘たちよ。醜いアボジ、オモニを許してはならない。代わりにアボジ、オモニが熱心に最善を尽くして君たちの悔しさをほぐすから。その時は少し笑って迎えてほしい。その日まで友達と先生と楽しく幸せに過ごしてほしい。後ほど空で笑って会おう。とても会いたい息子たち、娘たち、本当にたくさん、たくさん愛します」と語った。

記憶式に参加した遺族は、記憶式が進行される間とめどなく涙を流した。

追悼辞に続き記憶映像と記憶公演、4・16合唱団の公演が行われた。第1部が終わる頃の午後4時16分には、犠牲者を追慕するサイレンが1分間鳴った。

第2部では「4・16生命安全公園宣布式」が進行された。4・16生命安全公園はセウォル号惨事を忘れず、再び惨劇が起きないことを願う国家的事業だ。「4・16セウォル号惨事被害者救済および支援などのための特別法」に基づいて政府が推進している。安山市内に設立される予定であり、2024年竣工を目標に進めている。

(韓国インターネット新聞 民衆の声より)

【コラム】

百歳酒のはなし

百歳酒(ペクセジュ)は韓国料理店で時折見かける韓国酒のひとつだ。もちろん韓国国内でも広く普及しており、焼酎と5:5で混ぜた五十歳酒(オプセジュ)と称する飲み方も有名だ。ただ最近では焼酎のマイルド化に伴い、パンチ力を失った五十歳酒は人気を落としていると聞く。

韓国では古くから、米を原料とした醸造酒が作られてきた。三国時代から酒に関する逸話が散見され、高麗時代の史料を見ればうるち米を原料とした酒が紹介されている。

百歳酒は米を主原料とし、枸杞(クコ)の実、五味子、高麗人参など漢方薬材を使用して作られた酒だ。1992年、韓国の麴醇堂が伝統的な製法で作った新商品として売り出した。その際に紹介されたのが『百歳酒のはなし』である。

「昔、ある儒者が道を行く途中、若い青年が老いた農民を笞打っているのを見かけ、『お前は若者なのに、どうして老人を叩くのか』と叱ると、その青年は『この子は私が八十歳の時に生まれた息子だ。この酒を飲まずにいたため、私よりも先に老いてしまったのだ』と答えた。儒者はその青年に頭を下げて礼をし『その酒とは何でしょうか』と聞けば、『枸杞茶と様々な薬草が入った枸杞百歳酒だ』と言った。『百歳酒のはなし』麴醇堂販促ポスターより」。

この物語で百歳酒は世間から認知されるに至った。物語にあるように老化防止の効用がある韓方の酒として知られ、多くの飲食店でメニューに上った。

実は、この説話は朝鮮中期の学者である李睟光の百科事典「芝峰類説」の記事からとっており、さらにその元の話は中国の「神仙伝」である。ただし元ネタとは若干の異同があって、若者は女性であると記されており、酒の名前も「枸杞酒」とのみ語られている。「百歳酒」の名称は見当たらない。

話の舞台も漢の武帝の頃の中国だろう。

「昔、河西で使者が道行く途中、十六〜七歳ほどの女が、八十〜九十歳ほどの白髪の老人を打っているのを見た。使者は『汝は若い女なのに、どうして老いた翁を打つのか』と聞いた。女は『これは私の三番目の子だ。薬を服することを知らずに、私よりも先に髪が白くなった』。その歳を聞けば『三百九十五歳』という。使者は下馬して拜し『長生不老の薬』について聞いたところ、女は枸杞酒の法を授けた。使者は帰ってから、その法

に従って服用を続け、三百年の不老を得た。『芝峰類説』巻十九、食物部、酒より」。

ここで語られる枸杞酒の法は、しかるべき時節に枸杞の根、葉、茎、実をそれぞれ細切りにして陰干しにし、酒に漬け込むというものだ。適量を飲み続けると、13日で身が軽く気が盛んになり、百日で容貌が美しくなり若返るといふ。百歳酒はこの枸杞酒にあやかって作られた酒ということだ。

枸杞酒はメジャーな漢方酒で、古くからよく作られてきた。許

浚の「東医宝鑑」は枸杞酒についてこう紹介している。

「枸杞子酒。よく補益する(気の不足を補い益を与える)。枸杞子五升、清酒二斗を準備し、七日間漬けて取り出し、滓を取り除いて飲む。最初は三合から始め、後は好みとする。『神農本草経』『東医宝鑑』雑病篇、雑方」より。

もし現在、この枸杞酒を家庭用で作ろうとするなら果実酒の扱いになる。アルコール度数20度以上の酒で作るべきだろう。20度未満の場合、酒税法に違反する。(好)



▲百歳酒ポスター



